



入船だより

横浜市立入船小学校
校長 中村 公俊
学校だより 11月号
令和5年10月31日発行

「期分け式」

学校長 中村 公俊

10月6日(金)に「期分け式」を行いました。

「期分け式」という言葉を聞いて、あまりピンとこない方も多いかと思いますが、始業式や終業式など「学期をわける式」を総称して「期分け式」と呼びます。

横浜市立学校では、1年間を3つに区切る学校と、2つに区切る学校があります。3つに区切る、すなわち「3学期制」は、すぐにイメージがわくのではないのでしょうか。1学期を4月から7月の終わりまで、夏休みをはさみ9月から12月までを2学期、冬休み後の1月から3月までを3学期とする、オーソドックスな形です。一方、「2学期制」は、4月から10月の上半期までを前期、10月中旬から3月までを後期とし、前期・後期の2期で学校を運営する形です。最近では、横浜のほとんどの小学校が2学期制をとっています。少し難しい話になりますが、「横浜市立学校の管理運営に関する規則 本則」のなかに「前期を4月1日から10月の第2月曜日まで」「後期を10月の第2月曜日の翌日から翌年3月31日まで」と決められています。

では、どうして2学期制を行うのでしょうか。大きく2つの理由が挙げられます。1つは、学習の連続性の確保です。2学期制を行うことで夏休み前と後などで学習に区切りをつけず、1年を通し継続して学習を進めることができます。前期・後期の間も週末をはさむのみですので、「ここでいったん終わり」としなくて済むわけです。もう1つは、授業時間数の確保です。20年ほど前までは土曜日にも授業が行われていました。これが、社会の流れを受けて学校も週2日の休みとなった結果、授業のできる日にちが減少しました。さらに最近では、外国語学習や情報機器(コンピューター等)を使った学習など指導内容の増加も重なり、少しでも行事等(始業式や終業式)を減らし、時間数を確保する必要が出たためです。前期の終業式を金曜日に行い、後期の始業式を翌週初めに行うのに2時間かけるよりも1つにまとめ「期分け式」とし、時間数の確保と、学習の連続性をさらに担保しようというわけです。

入船小初の期分け式では、2、4、6年生の代表児童が前期の振り返りと後期の目標を発表しました。2年の齋藤美音さんは、前期に頑張ったことは運動会で、後期は算数の計算を頑張りたいと元気に発表しました。4年の島袋結桜さんは、算数の勉強と水泳を前期に頑張ったので、後期も続けていきたいと丁寧に発表しました。6年の北原蒼大さんは、算数と英語の振り返りを、そして中学校を視野に入れた後期の目標を堂々と発表しました。わたしからもこれまででできたことと、これから頑張りたいことをそれぞれ一人ひとり考え、後期に向かってほしいと児童に伝えました。

今年度も残り5か月。子どもたちには、さらにいろいろなことにチャレンジして欲しいと思っています。